

平成 26 年度 第 2 回獣医学共用試験委員会 議事録

- 1 日 時 平成 26 年 7 月 19 日 (土) 午後 1 時 30 分～午後 5 時
- 2 場 所 綿羊会館 会議室 (湯島 3 丁目 20-9)
- 3 出席者
- | | |
|-------------------|--------------------|
| 酪農学園大学：山下和人教授 | 酪農学園大学：遠藤大二教授 |
| 北海道大学：稲葉 睦教授 | 北里大学：高井伸二教授 |
| 東京大学：尾崎博教授 | 東京大学：杉浦勝明教授 |
| 岐阜大学：北川均教授 | 岐阜大学：杉山 誠教授 |
| 麻布大学：浅井史敏教授 | 鳥取大学 澁谷 泉教授 |
| 日本獣医生命科学大学：新井敏郎教授 | 日本獣医生命科学大学：森田 達志講師 |
| 岩手大学：山岸則夫教授 | |
4. 議題
- 1) 綿羊会館 3F 事務室 (75 m²) の件
 - ・ 室料月額 25 万円だが、19 万円となる。敷金・礼金は不要。
 - ・ 隣は「全国動物薬品器材協会」、1F は「畜産技術協会」で何かと利便性が高い。
 - ・ 平成 27 年 1 月から「獣医学共用試験機構」の事務所として契約したい。
 - 2) 問題品質管理部会の立ち上げと委員の選出
 - ・ 承認。正式には 9 月の全国協議会だが、部会の活動は直ぐに開始した頂く事とした。
 - ・ これにより MAC でも OK (大阪府立大学のみ) ---高井より案内 (遠藤先生の前案で送付済み)
 - 部会長：遠藤先生 (基礎系委員)
 - 病態系委員 森田先生 (日獣大)
 - 応用系委員 水谷先生 (農工大)
 - 臨床系委員 米澤先生 (東大)
 - 3) 宿題：薬学における NPO 法人の立ち上げの経緯 (資料 2-1)：高井より説明。
 - 4) 機構の立ち上げと予算 (資料 2-2)
 - ・ 尾崎先生が本日配布した資料で説明。
 - ・ 12 月に準備、2015 年 1 月に正式な登記---H26 年度の予算が必要。
 - 1) 2015 年 1 月：事務所の整備。
 - 2) 2015 年 2～3 月：トライアルの立ち会い。
 - ・ 寄付で H26 年度予算を準備。
 - 1) 新井先生より---日獣大 50 万、日獣大同窓会 50 万
日本獣医師会 10 万円、東京都獣医師会 10 万円、
その他企業 5 社程度の合計 170 万円 (200 万円は大丈夫)
 - 2) 高井先生 (案) --寄付について地方獣医師会に一口 5 万円×2 口要請
55 獣医師会×10 万円=550 万円?
 - 3) 収入：H26 年度---寄付金 200 万円
H27 年度---大学会費 945 万円+寄付 200 万円、
H28 年度以降---大学会費 945 万円+α 寄付 200 万円
 - 4) 文具は廃棄物を流用。
 - 5) 予算管理等があるので最終的にスタッフ 2 名が必要---確立するまでは獣医学共用試験委員会で対応。
事務局長---候補者に声かけ、大学退職教員、財団等の理事経験者。
事務委員---尾崎先生の知り合い、別に会計専門の方。
- 以下の項目は、9 月の全国協議会に向けた準備の確認です
- 5) 共用試験スケジュール (資料 2-3)

- ・ 「獣医学共用試験スケジュール表」(本日資料)に追加で埋めていく。
- ・ 予算立てをしっかりと構築する。
- ・ 8月に「受験生向けガイドライン」作成し、9月の日本獣医学会で ver. 1として公表
 - 1) 資料7「vetOSCE 実施要項案 ver 16」
 - 2) 資料4「13227vetCBT 試験監督マニュアル v. 0.3.1.doc」
- ・ 年度設定??? ---北大は6月に獣医学共用試験であり、他大学2-3月と年度が異なる
 - H28年度試験 or H28-29年度試験?
 - 入学年度とする?

6) 共用試験マニュアルの作成：尾崎先生から作成中のマニュアルについて、内容を最新版としたいので、各担当から最新のファイルを送付頂きたいとのお願いがあった。9月の全国協議会に提示したいので、8月中の送付を。

7) CBT トライアルの準備 (遠藤先生)

(1) ノートパソコンサーバーによる C B T 運用案 (資料 2-4-1~4) :

- ・ 2回の vetCBT トライアルでは試験問題設定で大きな問題があった
- ・ 遠藤委員よりノート PC をサーバーとする案について説明があった
 - 1) 実際に PC を宅配便で綿羊会館に配送して説明
 - 2) サーバー PC は 6 万円/台、予行演習サーバー & 本試験用サーバーの二台
 - 3) iPad で試験を実施する場合には、ルーターが必要。
 - 4) サーバー PC やルーター等は各大学で購入して、機構に設置する。
 - 5) サーバー PC やルーター等は企業に現物を寄付してもらう。
- ・ vetCBT に使用する端末は大学別で準備する
- ・ ノート PC サーバーシステムを進める --- 費用の提示とマニュアルを準備する
- ・ 数パターンの問題セットを使用することは知らせる (具体的なパターン数は秘密)
- ・ リスク管理 (浅井先生提案) : 最悪を想定して、紙ベースでの試験実施を準備。
 - 検討する。トライアルについても対応。
 - 写真のないセット (コピー用) 1 セットを封印して準備。
- ・ vetCBT 問題数 : 100 題 80 分については前回確認。

(2) 9月12日 CBT 担当者講習会 (獣医学研究科 e-ラーニング室 : 時間 9:00 ~ 15:00)

初めてのトライアル校が準備すべき物品リスト

初めてのトライアル校が準備すべき試験環境設定手順書

- ・ 日本獣医学会における vetCBT 実施担当者講習会 --- 定例化する (秋の日本獣医学会)。
- ・ 9月12日の講習会の案内状を準備し、来週には、全国協議会の各大学代表者に送付し、各大学から1名以上の参加を依頼することとした。
- ・ トライアル監督マニュアル等については、日獣大版をプロトタイプとした基本バージョンを森田先生に作成頂き、各大学で必要な事項を変更して、各大学版を作成することを、講習会において依頼することとした。

8) OSCE トライアルの準備 (北川先生) :

OSCE 小委員会における検討経過の報告 (資料 2-5-1)

- ・ 日本獣医師会年次大会での関連集会の開催は困難 --- 岡山大学等で開催?
- ・ 事前実習の準備 --- 各大学で説明すると必要性を理解してくれている。
 - 東大、山口大、日大、東京農工大で説明会の要請がない --- 後ろ向き。
- ・ 事前実習の手引き --- 最終段階。解剖用語と臨床用語。
- ・ シミュレーターの開発状況で試験内容を変更していく。
- ・ vetOSCE に関する手続き (資料 10) のたたき台を説明 by 北川先生
 - 1) vetOSCE 試験実施に関する詳細は各大学が責任を持つ --- 機構は共通作業のみ
 - 2) 試験日程 (1日は複数日か・・・) は確定していない。
 - 3) 医療面接、身体検査、縫合、の最低3ブースを実施?
- ・ シミュレーター
 - 1) H28 年度ではシミュレーターの使用は無理? あきらめるか?

- 2) 京都科学：犬に関しては完成度が高い。でも 100 万円---8 月に確定する？
 - 3) 富士平：子牛に関しては問題が多い。でも 100 万円。開発断念？
 - 4) 現実的には・・・犬を先行させる？？？
 - ・ 9 月の獣医学会では vetOSCE および vetCBT の基本を示す（「・・・かも」はなし）。
- 標準クライアント派遣契約書案（資料 2-5-2）
- ・ アニコムが派遣契約する相手は---？？？
 - ・ 標準クライアントの費用は各大学負担---各大学とアニコムで派遣契約。
 - ・ 日獣大のトライアルでは、8 レーン 13 名の標準クライアントを準備した。
 - ・ アニコムの支社：札幌、東京、名古屋、博多。
 - ・ 標準クライアントの質保証---認定システム
- OSCE 課題と学習目標の検討・共用試験マニュアルの内容検討
- ・ DVD を作成。
 - ・ 医療面接実習の評価者の養成---費用の問題---トライアルを利用する。
- 初めてのトライアル校が準備すべき物品リスト
- ・ 資料 8-1：北川先生がトライアルの費用を説明
 - 1) 日獣大トライアル：実技試験 4 レーン、医療面接実習 8 レーン
総額 170 万円---消耗品は 7 万円程度
会場設営に 100 万円
 - 2) 岐阜大トライアル：1 レーン 3 ブースで総額 34 万円程度
- vetOSCE トライアル実施についての意向調査（資料 11-3）
- ・ 9 月に実施を案内する。
- (1) OSCE 実施要領案（資料 2-5-3）
 - (2) トライアル予算案（資料 2-5-4~6）
 - (3) シミュレーター案（資料 2-5-7~9）
 - (4) OSCE 実施案（資料 2-5-10）
 - (5) OSCE 担当者会議予定案（資料 2-5-11~13）
 - (6) トライアル準備（案）（資料 2-5-14）
- 9) CBT 小委員会
- ・ 正答率を 80%にした。
 - ・ 精選数 3038 題/4587 問題（採択率 66.2%）
 - ・ 偏りの是正、残りの問題の精選。
 - ・ 100 題の精選に 20 時間程度。
 - ・ システムの操作性は大きく改善---初めての人と経験者との間に差はない。
 - ・ 負担：副責任者、責任者に負担大---問題数が多い。
 - 1) 科目委員 100 題、責任者 200 題程度が適当か？
 - 2) ほとんどの委員がもう一度やっても良いと解答。
 - ・ 問題作成の徹底、コアカリ教科書。
 - ・ 今回の問題精選体制で固定したい---検討部会を終了---安定化---精選委員（任期 2 年）
 - 1) 4 人体制：科目委員-1、科目委員-2、科目副責任者、科目責任者
 - ・ 問題精選の時期---確実に教員が大学にいる時期---年度末？
 - ・ 科目担当者の少ない科目で問題数が少ない---例：行動治療学
- 10) HP 小委員会(資料 2-6)
- ・ 「獣医学共用試験 Web サイトマップ案」---薬学の HP を参考に医学系内容も取り込む
 - ・ vetCBT「公開問題集」の作成提案---「CBT 体験受験」vetCBT の問題ではできない
---体験したい学生、しっかり勉強したい学生にも対応
---30 分間解答した学生さんに正答率を提供。
---vetCBT とは違う問題作成行程で問題作成---委員が作成する
 - ・ HP 作成費用は事務員の IT レベルに左右される
- 11) 財務小委員会

寄付金の趣旨書並びに開始のための準備について

- ・ 寄付金募集のひな形を作成し（新井先生）、9 月に紹介
- 12) 共用試験機構の立ち上げ準備の進捗状況（資料 2-7-1~3）
- ・ 公証人と話し合い：12 月までに設立時の役員と社員（最低 2 名）を決定する。
 - ・ 設立：2014 年 12 月 15 日
 - ・ 設立時社員：北大総長、東大総長、北里大学長、日獣大学長（設立時の 4 大学については、全国協議会会長校（北大）、国公立協議会会長校（東大）、私大協会会長校（日獣大）、共用試験委員長（北里大）という理由）---最終的には 16 大学
 - 1) 最低 2 名（2 校）の社員。
 - 2) 手は挙げてもらうが、間に合う範囲で。
 - 3) 設立後に理事会承認で残りの大学を加える。
 - 4) 9 月に説明。
 - ・ 定款作成代理人：杉浦先生
 - ・ 費用として 5 万円程度
- 注）北里大学学長は 7 月 1 日から小林弘祐に交代。
- 13) 平成 26 年度トライアル日程案（16 大学へのアンケート）：9 月 12 日の担当者会議で依頼
- ・ vetCBT：9 月 12 日の担当者会議で各大学の委員に要請する。
 - ・ vetOSCE：9 月 11 日の担当者会議で各大学の委員に要請する。
 - ・ 全国大学獣医学関係代表者会議でも要請する。

以上